

グループ最大の木造施設

木材を随所に現しで

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、埼玉県加須市にグループ最大規模の木造施設を完成させた。木造軸組の準耐火構造（平屋建て一部2階建て）で、施主のこだわりもあって随所に木材を現しで用いている。今回は施工の請負だが、同社が一般流通材をプレカットし、住宅建築で培ったノウハウを元に木材や建材、カラーコーディネートなどにも積極的に携わった。

物件は延べ床面積4552平方メートル（1374坪）合計1000床。施主は木造にこだわり、全棟木軸の平屋でこれほ

月。準耐火構造となると、石膏ボードなどを張る必要性から表面の木質感が損なわれがちだが、木材を見せたいという施主の意向に同社が応え、様々な試みが施された。玄関ロビーを入って左側の壁一面には、木

材を組み合わせたウッドパネルを制作。施主のイメージ写真を元に、サクラ、ツガ、松を仕入れ、同社の大工が組み立てた。当初はメーカの商品のパネルを張る予定が、既製品では木材のランダムな風合いが薄れたため、手作りして仕上げた。勾配屋根の部分では大断面集成材を現しで見せ、連続して並ぶ屋根タルキの造形美を演出。天井を外すことで空間を広げてロフトも設置でき、屋根面からは木材のランダムな風



延べ床面積1,374坪の平屋建て

の採光が室内を明るく照らした。居室には15センチ厚のムクゲのフロアを採用した。同社は5年前から非住宅のプレカット加工受注が増え、現在では全体の1割弱にまで拡大。3年前から軸組の施工部隊も動きだし、9割が今回のような施工のみの受注になる。今後は施工に加えて設計請負も進めていきたいところだが、設計事務所との連携も必要であることから、施工のみとの割合を半数ずつに置き換えていくことが当面の目標だ。

26日には設計関係者

約20人を招いて見学会を開いた。防・耐火構造や仕上げの仕様など細かい質問にも回答。2次元の図面では施主に伝わりにくい収まりも、同社の3Dパースなどを用いることで解決した。

同社は2014年ごろから中大規模物件を手がけるため、ゼネコンに現場監督6人を出向してきた。戸建て住宅建築の施工面ではほぼシステム化できており、施工前の打ち合わせだけで問題なく仕事が進む。ただ大規模物件の場合、戸建てとは管理方法が全く違う。設計図面の作成から職人の統率など多岐にわたって日々の調整が必要で、施主とも毎週の打ち合わせを元に仕事を進めていく。例えば今回の建物は横に長いので、木材を継いでいくなかで1ミリの長短が最終的な寸法誤差につながり、その調整も難しくなったという。

同社は2014年ごろから中大規模物件を手がけるため、ゼネコンに現場監督6人を出向してきた。戸建て住宅建築の施工面ではほぼシステム化できており、施工前の打ち合わせだけで問題なく仕事が進む。ただ大規模物件の場合、戸建てとは管理方法が全く違う。設計図面の作成から職人の統率など多岐にわたって日々の調整が必要で、施主とも毎週の打ち合わせを元に仕事を進めていく。例えば今回の建物は横に長いので、木材を継いでいくなかで1ミリの長短が最終的な寸法誤差につながり、その調整も難しくなったという。